

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 12 日現在

機関番号：34430

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381291

研究課題名(和文)「伝統と文化」教育に関する教師教育カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of teacher education curriculum on "tradition and culture"

研究代表者

中村 哲 (Nakamura, Tetsu)

プール学院大学・教育学部・教授

研究者番号：40091813

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、2014年度から2017年度の4年間において現代社会における教育の課題と今後の教育改革の展望を視野に「伝統と文化」教育に関する指導能力形成を図る教師教育カリキュラムの開発にある。この研究を通して次の「伝統と文化」教育に関する研究成果が得られた。教師教育関連リソース収集と実態調査及びデータベース開発、教師教育に関する研究理論解明、教師教育カリキュラムと授業の開発、開発教師教育カリキュラムと授業の活用。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research is to develop a teacher education curriculum aiming to develop teaching skills related to "tradition and culture" education with a view to educational problems in modern society and future prospects for educational reform in the four years from 2014 to 2017 .

Through this research, research results on "tradition and culture" education were obtained as following. Collection of Teacher Education resource and survey reports. Development of database about collection. Development of Teacher Education Curriculum and Lesson Plan. Utilization of Teacher Education Curriculum and Lessons.

研究分野：教育方法 教科教育学

キーワード：伝統文化教育 教師教育 カリキュラム 授業実践 日本文化 グローバル化 教材開発 データベース

## 1. 研究開始当初の背景

今日、学校教育の領域では、落ちこぼれ・非行・いじめ・自殺・万引・暴力・喫煙・飲酒・登校拒否・学級崩壊などの問題行動に見られる子どもたちの発達の危機状況としての深刻な問題が顕在している。それらの課題に対応する方法としては、問題解決的方法と文化創造的方法がある。前者は教育問題の事象に関する原因を客観的に説明し、その原因の改善を図る合理的対策を実施していく方法である。後者は国内外の生活文化や地域文化などに含まれる価値を主観的に把握し、その価値を新たな文化として他者との交流によって創造的に発展させていく方法である。そして、前者は科学的研究方法と称される性格を、後者は文化創造的方法と称される性格を有する。

これまでの大学における教員養成では、前者の方法に基づく学問的知識が中核的教育内容であり、後者の方法に基づく実践的スキル・技術が周辺的教育内容として位置づけられてきた傾向がある。また、この傾向は、教員養成の教育課程が、わが国における小中高等学校の教育課程に対応しなければならない事情も関連している。そして、わが国が戦後の廃墟状況から国際的な貢献が求められる世界の先進国として発展してきたのは、これまでの教員養成と学校教育の取り組みが牽引力になってきたのは事実である。しかし、国際化の進展と共に、日本及び日本人としてのアイデンティティが問われる状況や多様な文化価値観が主張される状況において、人類共通の課題、国や地域社会における公共性と児童生徒の多様な関心や価値観をも包括する人間形成に対応できる教員の資質・能力が求められている。

本研究においては、後者の文化創造的方法に基づく教員の資質・能力の形成を意図している。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、現代社会における教育の課題と今後の教育改革の展望を視野に「伝統と文化」教育に関する指導能力形成を図る教師教育カリキュラムの開発にある。

## 3. 研究の方法

国立および私学における教育学部のカリキュラム(「教科に関する科目」「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」)における「伝統と文化」に関する関連科目と内容について調査する。

国立および私学における教育学部以外のカリキュラムにおける「伝統と文化」に関する関連科目の内容を調査する。神戸大学大学院総合人

間科学研究科、京都造形芸術大学、池坊短期大学、国際日本文化研究センター、東京芸術大学などを調査対象とする。

欧米とアジア地域(中国と韓国)における教師教育のカリキュラムにおける「伝統と文化」に関する関連科目の内容を調査する。

国内外における伝統文化教育推進地域での小・中・高等学校のカリキュラムと授業について調査見学をする。また、小・中・高等学校における「伝統と文化」に基づく授業実践と研究著書等に関するデータベース「伝統と文化(和文)教育実践WEBデータベース」を継続的に開発する。( <http://28.pro.com/~hyogoshakai/wa/index.html> )

調査内容に基づいて担当授業科目の内容構成の課題と改善を検討する。さらに、「伝統と文化」の観点から教師教育カリキュラムの授業科目の内容とそれらの関連と系統を検討する。

「伝統と文化」教育に関する教師教育カリキュラムのモデル案を、文化教育基礎科目、表現文化専門科目、表現文化教育教職科目、体験文化専門科目、体験文化教育教職科目の視点から開発する。

「伝統と文化」教育に関する教師教育カリキュラムのモデル案を踏まえて社会科指導法の授業科目において活用できるデジタル教科書を開発する。

「伝統と文化」教育に関する教師教育カリキュラムに基づいて開発されたデジタル教科書の活用によって社会科指導法の教育実践を行う。そして、教師教育のカリキュラム構成と学習効果を評価する。

研究成果に関するウェブページの構築と報告書(デジタル教科書を含む。)の刊行をする。

本研究では、上述の9研究目標に対応して研究過程を、研究基盤構築期(平成25年4月~平成26年3月)、研究理論解明期(平成26年4月~平成27年3月)、研究理論活用期(平成27年4月~平成28年3月)、研究理論検証期(平成28年4月~平成29年3月)に区分する。そして、教師教育関連リソース収集と実態調査及びデータベース開発、教師教育関連リソース収集と実態調査及び研究理論解明、教師教育カリキュラムと授業科目におけるデジタル教科書の開発、開発教師教育カリキュラムと授業科目のデジタル教科書の活用と評価を行う。

## 4. 研究成果

平成26年度では、研究基盤構築期として教師教育関連リソース収集と実態調査及びデータベース

開発を主にして次のような研究を推進した。教師教育関連リソース収集と実態調査としては、小中提出確認用の学校を対象とした研究と国内外の大学を対象とした研究に着手した。前者の研究として、東広島市、武蔵村山市、由利本庄市における教育委員会と小 学校と中学校のモデル校を訪問し、カリキュラムと授業実践のリソースを収集した。後者の研究としては、国内では早稲田大学、兵庫教育大学、東京成徳大学、奈良学園大学を訪問し、各大学のシラバスの文献調査と担当教官へのインタビュー 調査を実施した。また、 國學院大學と東京学芸大 学においてはインターネット利用によってシラバ スの文献調査を行った。国外では中国における華 南師範大学、中山大學、華東師範大学、 同濟大学、上海理工大學の日本語専攻の学部及び学科を訪問し、各大学のシラバスの文献調査と担当教官へのインタビュー調査を実施した。特に、日本語教育としての語学と日本文化に関する授業科目の関連と大学生の日本文化理解の関心と知識に関する意識調査も行った。このような研究遂行を通して収集した教師教育関連リソースについては、5年 前から着手し、活用している「伝統と文化（和 文化）教育実践WEB データベース」に研究論文、 著書、授業実践などのデータを継続的に入力し、WEB データベースの運用を図る対応 をした。さらに、これまでに収集しているビデオを含めて「伝 統と文化」教育に関するビデオ授業を DVD にコ ピーし、授業記録の蓄積 を図った。

平成 27 年度では、平成 26 年度の研究と並行しながら研究理論解明期として次のような研究を推進した。教師教育関連リソース収集と実態調査としては、小中学校を対象とした 研究と国内外の大学等を対象とした研究を推進した。前者の研究としては、東広島市と秋田県由利本庄市における教育委員会とモデル 小中学校を訪問し、授業実践の見学と共にカリキュラムと授業実践のリソースを収集した。また、由利本庄市では和文化教育学会に参加し、シンポジウム等の研究交流を実施した。後者の研究としては、国内では早稲田大学、兵庫教育大学、アメリカ・カナダ大学連合 日本研究センターを訪問し、日本文化に関するカリキュラムと授業についての文献調査とインタビュー調査を実施した。国外では、米国におけるスタンフォード大学、コロンビア大学、インディアナ大学、南メソジスト大学の日本語・日本文化に関する学部及び学科を訪問し、各大学のシラバスの文献調査と担当教員へのインタビュー調査を実施した。これらの調査においてスタンフォード大学における

PICE (Stanford Program on. International and Cross-Cultural. Education) とコロンビア大 学における Asia for Educators の 研究内容が本研究との関連を有する。その意味では、日本の伝統文化に関する教師教育カリキュラムの研究理論を解明する上で意義ある取組である。本年度では日本文化に関するカリキュラムと授業の開発研究素材を見出したが、これらを踏まえて理論研究の推進が次年度の課題である。

平成 28 年度では、平成 26 年度からの「教師教育関連リソース収集と実態調査及びデータベース開発」を継続させながら、「研究理論解明」と「研究理論活用」の期間になる。しかしながら、これらの研究活動は並行に推進せざる得ない状況である。実態調査としては、これまでの協力地域である東広島市、広島県熊野町、秋田県由利本庄市、篠山市での伝統文化 に関するカリキュラムと授 業実践の資料収集がなされた。また、教材開発としては「鯉のぼり」「折り紙」「茶道」「武道」「凧」などを取り扱い、これらの教材の中から「鯉のぼり」教材の資料収集と教材内容研究のためにドイツのマルバツハ地域とフランスのパリ地域の海外調査を実施した。このような実態調査と教材開発を踏まえて、関学共通教育センターの「総合コース」の授業科目として「グローバル世界に発信する 日本文化教材の意義と活用」のカリキュラム案を編成した。この授業科目は平成 29 年度から 実施することになっている。また、教育学部の専 門科目として平成 20 年度から実施してきている「日本文化と教育」のカリキュラムにも本研究で 開発した教材を活用したカリキュラムに編成をしたのである。さらに、このような研究活動の理論 的意味づけと授業実践のモデル事例を示すために「文化を 基軸とする社会系教育の構築」という編 著を刊行し、伝統文化教育とも関連する授業とし て、「文化価値理解」の形態、「文化価値形成」の 形態、「文化価値創造」の形態に類型し、小学校、中学校、高等学校の学校段階の各形態のモデル授 業案を提案している。今後は、これらの教材を活用する「伝統と文化」教育に関するカリキュラム の開発と教師教育としての活用の意義等を検討する課題がある。

平成 29 年度では教師教育関連リソース収集と実態調査としては、小中の学校を対象とした研究 と国内外の大学等を対象とした研究を推進した。前者の研究としては、東広島市、広島県熊野町と兵庫県における教育委員会とモデル小中学校を訪問し、授業実践の見学と共にカリキュラムと

授業実践のリソースを収集した。特に、兵庫県の「伝統文化の学びの充実事業」のモデル校と協力し、伝統文化に関するカリキュラムと授業の開発と研究授業を実施した。さらに、平成 18 年度開発した兵庫県の学校設定科目「日本の文化」の英語版の開発協力をした。後者の研究としては、国内外の大学訪問をし、日本文化に関するカリキュラムと授業についての文献調査とインタビュー調査を実施した。特に、米国におけるスタンフォード大学、ハーバード大学、インディアナ大学の日本語・日本文化に関する学部及び学科を訪問し、各大学のシラバスの文献調査と担当教員へのインタビュー調査を実施した。これらの調査においてスタンフォード大学における SPICE (Stanford Program on International and Cross-Cultural Education) とハーバード大学におけるライシャワー日本研究所の研究内容が本研究との関連を有する。本年度では昨年度に刊行した「文化を基軸とする社会系教育の構築」(風間書房)の研究成果を踏まえて「国際文化交流を意図する『日本文化の魅力』」の英語版の教材開発を行い、国内外の協力大学にて活用する予定である

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には線)

〔雑誌論文〕 (計 6 件)

中村 哲 「グローバル文化シンボルとしての鯉のぼり教材の構成」開西学院大学『教育学論究』第 6 号 2014 年 12 月 pp.111-121

中村 哲 「東広島市における和文化教育の経緯と意義」和文化教育学会『和文化教育研究紀要』2015 年 7 月 pp.1-10

中村 哲 「海外におけるグローバル文化シンボルとしての鯉のぼり活動の進展」開西学院大学『教育学論究』第 7 号 2015 年 12 月 pp.119-129

中村 哲 「国際交流としての鯉のぼり活動とその意義」開西学院大学『教育学論究』2016 年 12 月 pp. 135-145

中村 哲 「『伝統と文化』教育における〈基本的な見方・考え方〉」日本人間教育学会編『教育フォーラム』金子書房 2018 年 2 月 pp.60-68

中村 哲 「世界で泳ぐ鯉のぼり」日本鯉のぼり協会『鯉のぼり図鑑』小学館 2018 年 2 月 pp.60-62

〔学会発表〕 (計 6 件)

中村 哲 「空間的地域単位からシンボリック地域単位としての和文化教育」和文化教育第 11 回全国大会 2014 年 11 月 21 日 武蔵村山市立小中一貫校村山学園

中村 哲 「東広島市における和文化教育の経緯と意義」日本教育方法学会第 50 回記念大会 2014 年 10 月 12 日 広島大学教育学部

中村 哲 「和文化教育の経緯と性格」和文化教育第 12 回全国大会 2015 年 9 月 18 日 秋田県由利本荘市

中村 哲 「国際交流としての鯉のぼりの魅とその意義」2016 年度関西学院大学教育学会 2016 年 3 月 16 日 関西学院大学教育学部

中村 哲 「文化を基軸とする社会系教育の構築」全国社会科教育学会第 65 回全国大会 2016 年 10 月 9 日 兵庫教育大学

中村 哲 「文化遺産の教材化の意義と授業実践」和文化教育第 13 回全国大会 2017 年 10 月 29 日 兵庫県篠山市

〔図書〕 (計 1 件)

中村 哲 編著『文化を基軸とする社会系教育の構築』風間書房 2017 年 3 月 pp.1-293

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 哲 (プール学院大学・教育学部・教授)

NAKAMURA TETSU

研究者番号: 40091813

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3)研究協力者

( )